

一般社団法人日本医療薬学会  
2019年度第1回定例理事会 議事録

一．開催日時： 2019年2月28日（木） 13時00分～16時30分

二．開催場所： 日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭： 奥田 真弘

副会頭： 山本 康次郎、千堂 年昭

理 事： 伊藤 清美、大谷 壽一、河原 昌美、吉光寺 敏泰、崔 吉道、  
武田 泰生、宮崎 長一郎、山田 清文

監 事： 大森 栄、安原 真人

陪席者

顧 問： 木平 健治、佐々木 均、和田 一夫

事務局： 星 隆弘、姫嶋 直子

欠席者

副会頭： 山田 安彦

理 事： 青山 隆夫、出石 啓治、井関 健、川上 純一、寺田 智祐、  
峯村 純子、佐藤 淳子、望月 眞弓

監 事： 山元 俊憲

顧 問： 五十嵐 邦彦、山本 信夫

四．議長： 奥田 真弘

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 11名の出席があり、定款第38条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1．平成30年度第6回定例理事会議事録の確認

議長より、本年12月27日に開催された平成30年度第6回定例理事会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。続いて、前回理事会から昨日までに開催された各委員会等の会務状況が報告された。

2．協議事項

(1) 平成30年度事業報告案

崔理事より、本年3月20日に開催する第11回定時社員総会の資料(案)を基に、平成30年度事業報告(案)の概要が説明された。協議した結果、表記の一部を修正して第11回定時社員総会の資料に組み入れることとした。

## (2) 平成 30 年度決算報告(案)

議長より、第 11 回定時社員総会資料(案)、同総会資料の別冊(補足資料)を基に、平成 30 年度決算報告(案)が説明された。協議した結果、当期の決算報告(案)が了承され、第 11 回定時社員総会の資料に組み入れることとした。

## (3) 平成 30 年度監査報告

安原監事より、本年 2 月 22 日に実施した監事監査に基づく平成 30 年度の監査報告があった。事業については、公益社団法人への移行に係る議論や各認定制度の見直しに係る議論が活発に行われるなど充実した活動が認められたこと、また、財務状況が良好であったことより、特段の指摘事項がない旨の報告があった。

## (4) 各認定制度の見直しに係る検討

議長より、前回の理事会で説明された本学会の各認定制度の見直しに係る議論の進捗として、認定薬剤師制度を改変して医療薬学専門薬剤師制度とし、教員のみならず、病院や薬局の勤務者であっても所定の研修を履修することで専門薬剤師の資格が取得できる仕組みにすること、また、研修施設の拡充策が説明された。なお、2019 年をもって認定薬剤師の申請受付を取り止め、2020 年度から医療薬学専門薬剤師制度及び見直しを加えた薬物療法専門薬剤師制度の申請受付、認定等に係る運用を開始する方針が説明された。協議した結果、今年度をもって申請受付を終了する認定薬剤師の取扱いに関する意見があったが、最終的には議長提案が了承され、第 11 回定時社員総会の会場において代議員に本対応を説明する方針が示された。

## (5) 新たな学会賞の創設

山本副会頭より、新たな表彰制度に係る検討 WG における新たな表彰制度の検討に基づき、①学術貢献賞と奨励賞の間に位置する表彰制度の新設、②JPHCS 論文賞の新設、③Postdoctoral Award の授賞者数の拡大に係る提案と、相談事項として医療薬学領域の学術面に限らず、教育や社会(地域等)への貢献などの多岐に亘る活動の表彰制度として振興賞(仮称)の設置に係る意見伺いがあった。協議した結果、②及び③は了承、①の表彰制度の名称は再考、振興賞については継続して具体的な検討を進めることとし、引き続き WG で検討されることとなった。

## (6) がん専門薬剤師研修小委員会細則の改正、同専門薬剤師育成小委員会細則の策定

河原理事より、前回の理事会で議論されたがん専門薬剤師全体会議の運営を担う新たな小委員会として、がん専門薬剤師育成小委員会(仮称)を編成することを含めた次の提議があった。同委員会の発足にあたり、がん専門薬剤師や同指導薬剤師の認定者(有資格者)を対象とした研修活動と、がん専門薬剤師認定資格の取得前の者(無資格者)を対象とした研修活動に分けて、前者の活動をがん専門薬剤師育成小委員会が担い、後者をがん専門薬剤師研修小委員会が担うことと

し、前者の小委員会細則の新規策定と後者の委員会細則の改正を行うことが説明された。協議した結果、各小委員会の名称を再考すること、その際、専門薬剤師育成委員会及び総務委員会を交えた検討を実施することとなった。また、河原理事より、関係者（小委員会委員ら）の意見も確認した上で、次回の理事会に検討結果を提示するという方針が示された。

#### (7) がん専門薬剤師育成小委員会の編成

河原理事より、前項により委員会の名称が継続検討となった小委員会の編成案として、がん専門薬剤師全体会議の実行委員を主体とするメンバーを構成する編成案が示された。協議した結果、当該構成メンバーについては了承された。

#### (8) 委員会細則の改正

河原理事より、前述の小委員会の新たな編成に伴う委員会細則の改正に関する提議があったが、各小委員会の名称と併せて、次回の理事会で再検討することとなった。

#### (9) JPHCS に係る出版契約の更新、APC の負担

大谷理事より、JPHCS 論文投稿・公開の開始から 5 年を迎え、出版契約の更新を進めることになるが、更新後の契約では新規導入時に高く設定されていた APC の割引率が低下するため支出が増加することが説明された。そのため、著者、本学会、或いは著者と本学会の両者が均等に負担するシミュレーションデータをもとに協議した結果、今後も本誌への投稿促進と充実化を図る観点より、支出の増加分は本学会で負担することとした。

#### (10) 医療薬学学術第 4 小委員会の活動

（千葉大薬学部卒後研修との共催又は後援による WS の開催）

山田理事より、本年 4 月より発足する医療薬学学術第 4 小委員会より、応募申請時の研究計画書に記載の通り、薬物相互作用のエビデンスの創出を目的とする他の学会等との連携した活動を進めるために、千葉大薬学部卒後研修との共催又は後援による WS の開催の計画の提議があったことが説明された。協議した結果、本件は共催による開催が了承された。

#### (11) 日本心臓リハビリテーション学会からのジョイント企画の依頼

議長より、日本心臓リハビリテーション学会より第 29 回本学会年会での本学会のジョイント企画の開催に係る提案を受けたという説明があった。依頼文書には具体的な企画の主旨等に関する記述がなく回答が困難であること、また年会に関する依頼のため、本対応を武田年会長に一任することとなった。

#### (12) AMR アライアンス JAPAN への協力

議長より、日本医療政策機構より、同機構が主体となって運営している AMR アライアンス・ジャパンへの協力要請を受けたが、依頼内容を改めて確認する必要

があるとの意見があった。本件については、今後、同機構の担当者が来局して会頭に説明を行う予定であるため、本対応は次回に先送りすることとした。

(13) 学術著作権協会との契約更新（転載許諾の委託契約の追加依頼）

崔理事より、前回の理事会に諮り、継続審議となった学術著作権協会からの依頼があった転載許諾の業務委託契約の締結に係る対応について、過去に事務局が取り扱った転載許諾件数と許諾料を基にしたシミュレーションデータに鑑み、当該業務委託の必要性が乏しいという主旨の説明があった。協議した結果、本依頼には応じないこととした。

(14) 事務局嘱託職員の職位

議長より、本年 4 月 1 日付けで採用予定の嘱託職員の役職名として、予め副会頭と協議した結果、事務局内での役割や立ち位置が理解しやすい名称として、事務次長とすることが説明された。協議した結果、本件は了承された。

(15) 会費の遡及納入に係る嘆願への対応

議長より、前年度会費の遡及の嘆願 2 件について説明があり、協議した結果、本嘆願を了承することとなった。

### 3. 報告事項

(1) 第 28 回年会（神戸）決算報告

千堂第 28 回年会長より、第 28 回年会の決算報告があった。神戸での開催にあたって獲得できた寄付金等の影響もあり、黒字決算となったことなどが報告された。

(2) 第 26 回日本臓器移植関連学会協議会（1/19 開催）報告

千堂副会頭より、本年 1 月 19 日に開催された第 26 回日本臓器移植関連学会協議会への出席報告として、本協議会の議事概要が報告された。

(3) 講習会・セミナーの開催計画（第 7 回がん専門薬剤師全体会議）

河原理事より、第 7 回がん専門薬剤師全体会議を本年 5 月 11 日（土）にヤクルトホールで開催する計画及びプログラムが報告された。

(4) 後援依頼への対応

議長より、本学会への後援依頼があった「第 11 回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム」、「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019」、「日本肺癌学会肺がん医療向上委員会・医療従事者向けセミナー2019」、「第 26 回オンコロジーセミナー」に係る当該 4 件の後援を承諾したことが報告された。

(5) 高齢者がん医療コンソーシアム設置に向けた協力依頼への対応

河原理事より、過日の理事会で協議されてきた高齢者がん医療コンソーシアム設置に向けた協力依頼への対応として、松尾宏一氏（福岡大学筑紫病院）を推薦することが報告された。

(6) 各委員会報告

河原理事より、がん専門薬剤師抗がん薬プロフィール小委員会の委員会報告として、日本癌治療学会がん診療ガイドライン医薬品プロフィール分科会への協力内容として、2018年までに日本で発売された175種類の抗がん薬のリスクファクターに基づく禁忌と慎重投与のとりまとめを終え、同学会のがん診療ガイドラインの医薬品情報として掲載準備中との状況が報告された。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は16時30分に閉会を宣言し、解散した。